

岩手県立博物館の新型コロナウイルスへの対応について

<流行当初における対応>

令和元年末頃から中国をはじめとする諸外国で新型コロナウイルスの流行が報じられるようになり、岩手県内では令和2年1月末頃に海外からのツアー客の客足が途絶えた。それと前後するようにイギリス船籍のクルーズ船、ダイヤモンド・プリンセス号の乗客の中に発熱者が報告され、後に新型コロナウイルスに感染していることが確認された。この頃岩手県内での罹患者は皆無だったが、来館者と触れる機会の多い解説員がマスクやフェイスシールドの着用をいち早く始め、「体験学習室」の利用に際し、入室時の手洗いのお願いと用具使用後に解説員による消毒作業が行われるようになった。館内各所に手指消毒用アルコールを設置し、ドアノブはじめ各所の消毒も行うこととした。

行事、イベントについては2月までは予定通り開催されたが、令和2年2月末時点で3月の「たいけん教室（3回）」、「ミュージアムシアター（1回）」を中止とし、「日曜講座（3月8日分）」を延期と決定した。展覧会については令和2年3月14日よりテーマ展「化石の水族館」が開始されたが、東京都などでの感染者の増大を受け、ハンズオン展示について一部を撤収し、展示を継続するものは展示方法を変更した。

令和2年3月に入り新型コロナウイルスが収束する気配が見えないことから、テーマ展「化石の水族館」に関わる日曜講座「恐竜好き少年が魚類化石研究者になりました（講師：城西大学水田記念博物館学芸員・宮田真也氏、3月28日開催予定）」が一旦5月3日に延期され、その後感染拡大に伴って中止となった。展覧会担当学芸員による日曜講座は4月26日に予定されていたが、こちらも中止された。

<令和2年度開館に際して>

ゴールデンウィーク期間については、県からの指示により4月25日から5月6日まで臨時休館とした。開館に際しては、感染症拡大防止に努め、様々な対応策をとった。入館者に対しては、入口での手指のアルコール消毒とともに、受付でサーモグラフィーによる体温のチェックとマスクの着用をお願いした。なお、マスクの準備の無い入館者には受付で配布できるようにしたが、乳幼児など当館利用者の多くを占める小さな子どもたちについてはその限りではない。受付およびミュージアムショップカウンター、サービスコーナーには透明シートを設置し、館内の来館者が直接触れるような場所では解説員および清掃業者によって、随時消毒を行った。また、各階トイレ前や特別展示室前、映像室前など、各所に手指用アルコールを設置しいつでも利用できるようにした。

学校等の団体に対して館内の見学は分散して行うように求め、展示の解説についても大人数ではなく、20人程度の集団に分割するとともに時間制限を設けて実施した。

<展覧会関係>

2月末から首都圏で新型コロナウイルス罹患者が急増し、岩手県での患者の報告は無かったものの隣接する青森県や宮城県では感染者の発生が報告されていたため、6月半ばからを予定していた開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」の開催が危ぶまれるようになった。展覧会を開催することで多くの人を集めることになることと、この展覧会では東京などか

ら多くの資料を借り受けする予定があり、借り受けに行けるのか、また借り受けに行った場合担当者は2週間の自宅待機を義務づけられるのかなどの懸念が生じ、4月28日付で開館40周年記念特別展および関連行事はすべて中止することとした。この時点では展覧会をすべて中止とするか翌年に延期するかは予算措置のこともあり決められず、後日検討することとなった。なおこの中止に伴いテーマ展「化石の水族館」は、会期が5月6日までの予定を8月23日まで延長することとした。

秋以降の3本の展覧会は、会期や展示資料・展示方法など一部変更となったが開催することができた（詳細は前述）。また、展示解説会や関連講演会などは、事前予約や人数制限をするなどして3密状態にならないよう実施したが、実施日直前での変更が生じ、広報が間に合わずに一部混乱を招いた部分もあった。

<イベント関係>

単発イベントである「バックヤードツアー（5月）」、「古文書入門講座（6月）」、「ナイトミュージアム（8月）」「ヒストリックカー&クラシックカーミーティング（10月）」は感染状況に鑑みて、協議の結果中止とした。

「博物館まつり（10月）」は実施する前提で準備を進めてきたが、不安材料が拭えないということで規模を縮小した行事（博物館プチまつり）へと変更し、最終的には一部の行事（チャンバラ合戦）のみを実施した。実施期日も当初予定の10月11日から11月3日へと変更して「まつり」の呼称は使用しなかった。

「冬のワクワク！ワークショップ」は定員を設定して実施した。

毎月第2、第3土・日曜日に実施している「チャレンジ！はくぶつかん」は感染拡大の要因にはなりにくいと判断し、開館している限り予定どおり実施した。

「たいけん教室」は6月中旬まで中止としたが、それ以降は定員5名として実施した。

県博日曜講座は、開館40周年記念特別展関連の6月～8月分が展覧会中止とともに全て中止となり、9月から再開した。聴講者の人数に関わらず全て講堂で開催することとし、収容人員140名に対して50名までの入場制限を行った。同様に講堂で実施しているミュージアムシアターについても定員を50名とし7月から再開した。

<展示室以外の施設利用について>

「たいけん学習室」は年度当初、感染拡大を防ぐための解説員による消毒作業が煩雑すぎるごとと、利用者の集中による感染拡大を避けるため一時閉鎖された。しかし、ゴールデンウィーク以降は利用の希望が多かったため平日に限り利用可能とした。但し土日休日と夏休みなど学校の長期休業期間中は閉鎖している。なお、入室の際はたいけん学習室入り口での手洗いと手指の消毒をさらにお願した。

「映像室」についても入場者数を制限し、その人数管理と上映中の暗い室内における来館者同士不用意な接近を避けるため、途中入場を原則禁止とした。上映後はその都度解説員による座席シートアルコール消毒を行った。

2階にある喫茶「ひだまり」では、手指消毒用アルコール設置をはじめ、机の配置の変更やアクリル板の設置などを行い、利用できるよう工夫していただいた。

<館外イベント>

「地質観察会」、大船渡など沿岸部で予定していた「自然観察会」は野外での行事で感染要因になりにくいことと、開催予定が夏であり年間計画立案時にはまだ時間的余裕があることから感染状況を暫く窺っていた。しかし南三陸町での実施を予定していた「第79回地質観察会」はそれまで宮城県仙台市を中心として感染者が増えていたものが石巻・気仙沼方面でも感染者が発生したとの報道を受けて中止することとした。自然観察会は予定していた期日を遅らせ、感染拡大の収まり具合を見ながら限定的に広報し、募集人数も例年より減らすなどの措置を講じて例年どおり2回実施した。「第80回地質観察会」は10月の実施予定で感染拡大の収まりが見込まれたことから予定どおり実施した。